



『書いて鍛えて強くなる！ 原田式メンタル教育』

原田 隆史(著)
日経BP
(2020/6)
880円

あの大谷翔平選手も実践していた
『原田メソッド』を学べる一冊です。

【感想】

原田 隆史 先生

大阪市内の公立中学校に20年間勤務。その間、当時無名だった公立中学校の陸上競技部を7年間で13回の日本一に導くなど、保健体育・生活指導に注力し、問題を抱える教育現場を次々と立て直してこられました。独自の育成手法『原田メソッド』は多くの企業からの注目を受け、企業研修や人材育成で活躍されております。

『原田メソッド』の大きな特徴は、目標を文字に起こしたり、周囲に宣言することで目標を明確化する点にあります。目標設定のためにいつまでに何が必要かを考え、実践する逆算思考が身に付くのも特徴の一部です。社長が理念や計画を社員に宣言・共有し、全社一丸で取り組むように経営計画書や経営計画発表会に通ずるものがあります。

原田先生の教育では生活態度を改善することで、心を綺麗にする「態度教育」が有名です。その結果、生徒達を幾度も日本一に導いてこられました。いかに普段の整理整頓や挨拶が、目標達成において重要な習慣か学べる内容になっています。

【以下引用】

- ・目標設定の効果は、心を使いながら書いて、書いて、イメージを鮮明にしていくことにありますが目標を実際の成果につなげるためには期限を決めて、周りの人に宣言するということも欠かせません。
- ・態度教育によって心のコップを上に向け、学ぶ姿勢さえ身につけさせれば、ノウハウを教えることは簡単であり、それがパフォーマンスの向上にもつながるのです。
- ・松虫中学校の態度教育では、清掃や奉仕活動も取り入れ、また、他の選手のサポートにも積極的に取り組ませました。
これらの体験を続けていると、少しずつですが、上向きになった心のコップの容量が大きくなります。そうして人間としての器が大きくなれば、気づき力が高まり、自分を支えてくれている人への感謝の気持ちがわいてきます。周りに感謝できない人間に成長はあり得ません。つまり、一見他人のためにやっているようなことが、実は自分自身の成長につながるのです。

『原田メソッド』にはピーター・ドラッカー氏や一倉定先生の教えとも共通点が多くあります。私自身も『原田メソッド』を実践しております。目標設定をし、日々取り組んでおりますが、期日ややるべきことを書き出すことにより、行動に移しやすいと感じます。ぜひ社員教育の一環として取り入れてみてはいかがでしょうか。